

## 2021年度 第4回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2021年9月4日(土) 10時~13時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン研修
- ◇参加者 川崎・小川・古谷(橿原市立耳成南小)、赤松(和歌山市立雑賀小)  
片山(長浜市ユネスコ協会)、米田(大阪エリーニユネスコ協会)  
別府・渡邊(長浜市立西浅井中)、菅原(長野県山ノ内町立山ノ内南小)  
新宮(奈良市立平城小)、中村(附属中)、北村(御所市教育委員)、  
栗谷(本学卒業生)、大竹(学部生)、加藤(川上村役場)  
尾上・成瀬・木村・古山・上西(森と水の源流館)  
大西・杉山・中澤(奈良教育大学) 計23名

### ◇学習指導案の検討

#### 1. 「地域と秋篠川のプラスチック汚染を解決しよう」(平城小・4年・総合:新宮先生)

##### (1) 導入について

コロナ禍のため、秋篠川に入るという体験はできない状況にある。体験ができれば、これまで身近にありながらも入ったことがない秋篠川に入ることで、児童の関心を高めることができるのだが、工夫が必要となっている。

→ 歌(詩)を用いて関心を高める

- ・スーパーの鮮魚コーナーで流れている「おさかな天国」
- ・白浜のとれとれ市場で流れている「とれとれ音頭」
- ・紀ノ川じるしの見本市のBGM「水の旅のはなし」

→ 「おさかな天国」も「とれとれ音頭」も繰り返し流す理由はわかるが、なぜ紀ノ川じるしの見本市で「水の旅のはなし」を流しているんだろう? 「他のとはちょっと感じが違う」

→ 歌詞の意味を調べよう → 森と水の源流館への校外学習で吉野川の役割を教わる

→ 秋篠川にも役割があるはずだ。

→ 地域の人に秋篠川の役割などについて、インタビュー調査を行う。

##### (2) 学習課題の発見

- ・秋篠川にはゴミが多い。プラスチック系のゴミが多い。
- ・このゴミはどこから来て、どこへ行くのだろうか?

##### (3) 学校間交流

- ・ユネスコエコパークであり、海ゴミに取り組む屋久島の中学校との交流学習

##### (4) 本実践に関する意見交流

①秋篠川に入ることができない状況に対して歌を導入に活用するのはよいのではないか。

「おさかな天国」と「とれとれ音頭」は客を呼び寄せる曲だが、「水の旅のはなし」はどのような目的でつくられた歌なのか。歌の歌詞だけでなく、作詞家作曲家がおられるので、目的にも焦点を当てての方がいいだろう。

②体験的な学習ができない状況なので、標本を利用するということも考えられる。

③学校間交流に力点を置いた方がいいだろう。相手もユネスコスクールなので、川を「テーマとしたプロジェクトとして「命のつながり」「自分とのつながり」をしっかりとっておきたい。

交流学習による児童の変容(ゴールの姿)をしっかりと予想し、学習計画を立てる。

児童自らのライフスタイルの変容 → 大人への発信へ

※同様の問題に取り組んでいる北海道の釧路の小学校を紹介できる（きんき環境館）  
学校だけの学習に終わることがないように、行政も巻き込んだ方がいいだろう。

## 2. 「おとなりの国 韓国について学ぶ」（耳成南小・2年・道徳：川崎先生）

### （1）単元の目的

- ・文化的な共通点・相違点を見つけ、その理由を考えさせる学習を行うことで、「相手のことを理解しようとする」態度を養う。人権教育との接点
- ・学んだことを「なかま集会」で発信できるようにしたい。

### （2）導入について

ユンノリで遊ぶことで、韓国への関心を高める

GT（現在未定）とオンライン交流を行い、ますます韓国のことが知りたいという気持ちを高める

GTより韓国の文化について教わる

### （3）これからの交流について考える」

低学年用「なかま」に記載されている「アプロ（これから・将来）」の歌詞に込められた願いについて考え、自分のこれからの行動に結び付ける。

### （4）本実践に関する意見交流

- ・小学2年生という発達段階で、学習後にどのような子どもの姿を目標とするのかを具体的に考え、そのために必要な手立てを考える。韓国と日本を比較し、文化的共通点と相違点を見出す上で、衣・食・住を切り口とするのがよいだろう。
- ・相違点をそのままにするのではなく、「違うけど、よく似ている」→仲良くしていきたいという心情を養うこと。また、道徳だけで11時間もとることはできないので、特別活動などと接続し、韓国だけでなくいろいろな国の人と仲良くしていこう という形に持っていけないか？
- ・日本の日常生活の中に、韓国文化で親しんでいるものはいっぱいあるので、それらを探って見つけていく活動をしてはどうか。
- ・本実践においては、GTの人選が1つの鍵になるだろう。GTを通して文化を知るというのは、その人を知ることと同じことだ。

## 3. 水のチカラ プロジェクト（耳成南小・4年・総合：小川先生）

### （1）実践の概要

- ・校区を流れる米川と銭川が最近きれいになってきた。その背景にある人々の努力に気づかせる
- ・源流館を訪問し、川上村の人々の営みを知ること、米川・銭川にも地域の人々の取り組みがあるのではないかと気づかせる
- ・校区の川の現状を把握するためにパックテストを行う
- ・パックテストの結果を校区地図にまとめる
- ・学習したことを発信する

### （2）本実践に関する意見交流

- ・講義から学習に入るのは、4年生には難しいため、2次のフィールドワークを学習の最初に位置付け、直接体験・共通体験を持たせた方がいいだろう。
- ・教員は知識よりも、子どもの思考の流れを意識して授業を展開する。このことをあらかじめ、GT

に伝えておかないと、「答え」を言ってしまうことがよくある。GTと信頼関係を作り、事前によく打ち合わせを行うこと。

- ・アクリルたわしは、今、海洋のナノプラスチックの発生源として問題視されている。
- ・パックテストよりも生物指標調査の方がいい。パックテストは、その時の状況に影響された結果を示すが、生物指標調査は、より事実に近い結果を得ることができる。
- ・河川とため池でパックテストを行うと、ため池の方が「汚れている」結果が表れるが、ため池の方が生物多様性が豊か(栄養価が高い)である。「きれい」は誰にとっての「きれい」なのかを考えるきっかけにしてほしい。
- ・発信は、学校内だけでなく、地域の人を対象にして、地域を巻き込んだ行動変容を促してほしい。
- ・運動会などで「水リレー」をする。バトン代わりに水を「バトンタッチ」することから、川上村の川上宣言を耳成南にバトンタッチし、その内容を考える展開にしてはどうだろう。

#### 4. その他

次回の第5回セミナーは森と水の源流館を会場にハイブリッドでの開催を考えている。そこに、「水の恵み」をテーマに取り組んでいる小中学校の児童生徒の発表の機会をつくることを考えていきたい。

今回参加していただいた、平城小学校、耳成南小学校、山之内南小学校、雑賀小学校、西浅井中学校、奈良教育大学附属中学校で、交流学习ができればと思う。



お・い・し・い・ね このお米  
どうしてつくっているのかな?  
農家さん 心をこめて  
そだててるから できるんだ  
でも は・て・な  
水がなげれば どうなるの?  
むかし すくない雨 こまっていた奈良ぼんち  
夢がかなった よしのがわぶんすいのおかげで  
森からの水 ダムへとたまり 川をくだって  
田んぼにとどいた 山をもこえて

お・い・し・い・ね お魚も  
どうしてとれなくなるならないの?  
漁師さん 海をあいして  
とっているから つづくんだ  
でも は・て・な  
海にも川が そそいでる!  
とおい 森から里 田んぼ旅した水  
そこであった 命と力たくわえながら  
やがて海へと ながれてゆく ゆたかな海は  
つながってるんだ ゆたかな森と  
つながってるんだ ぼくたちと